

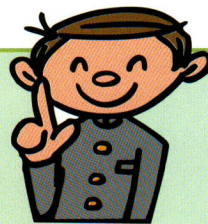
9

明治時代



▲大久保神社

この写真は郡山市内にある
神社なのかな
神社の名前は何だろう？



これは郡山の安積町の牛庭地区にある
『大久保神社』とよばれる神社だよ。
明治の元勲、大久保利通の功績を称え
たものだね。
郡山と大久保利通とのかかわりを調べ
てみよう。

江戸時代より農民の間での水争いが絶えなかった郡山では、猪苗代湖の豊富な水資源を利用し、広大な原野を開墾する壮大な計画がありました。明治9年(1876年)明治天皇の東北巡幸を機会にこの地を見聞した大久保利道らは、安積開拓が政府事業として有望であることを認め、ついにその3年後、安積疏水の工事が開始されました。この工事は着工以来2年8か月の歳月を経て完成しました。完成までの総工事費は当時の金で約40万7000円、動員された人数は延べ85万人でした。これより、3万石と言われたこの辺一帯の米の収穫量が30万石まで増えることになりました。

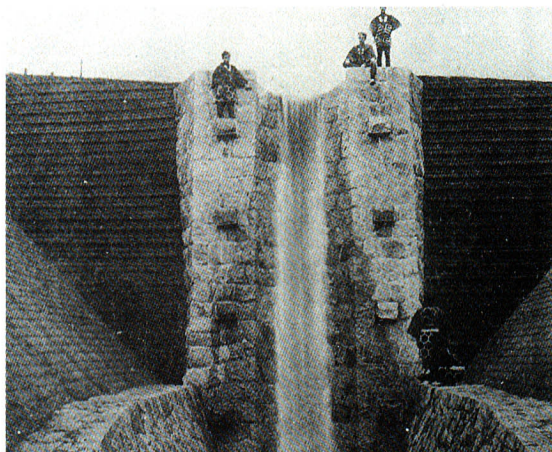
「岩が根をくだきて落とす猪苗代の水は
黄金の種となるらん」

安積疏水の通水式で詠まれた歌です。

この通水式では、岩倉具視などの政府高官が出席したほか、麓山公園では舞踏会が催され、有志寄付の200発の花火が打ち上げられました。開成山大神宮に代表される、この当時建てられた神社などから、地元の人々や各地方から移住してきた士族たちの「新天地郡山」にかける情熱をうかがい知ることができます。



▲明治初期の開成山大神宮境内



▲明治15年に完成した当時の麓山公園